作成日　２０１１年　３月　１日
改訂日　２０２３年　５月１７日

安全データシート

１．製品及び会社情報

製品名	ＫＳクリーン　自動洗浄機用（アルカリ無気泡性）
商品コード	ECF-2404　　ECF-2420
使用用途	実験器具・一般製造工場業務用洗剤（ＰＲＴＲ法非該当品）
会社名	高信化学株式会社
住所	群馬県高崎市大八木町 801
担当部門	営業企画室
電話番号	027-361-3221
ＦＡＸ番号	027-361-4007
緊急連絡先	027-361-3221

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）	区分 2(気道刺激性)

環境に対する有害性

水生環境有害性　短期	区分 3

記述のないＧＨＳ分類は「区分に該当しない」または「分類できない」である。

ＧＨＳラベル要素　　絵表示

注意喚起語	危険。
危険有害性	皮膚の薬傷。強い眼刺激。呼吸器への刺激。 飲み込むと有害。長期的影響により水生生物に有害の恐れ。 流出は水生環境に影響を及ぼす。
人の健康に対する有害性	蛋白質を分解する作用があり、皮膚への付着を注意する。 飲んだ場合、口内､食道､胃等の粘膜が侵され重篤になることがある。 粉塵やミストを吸入すると気管、肺などに炎症を起こす。 低濃度溶液でも水分が蒸発すると、同様の症状を起こす。 眼に入った場合、結膜や角膜が侵され視力低下や失明する事がある。
注意書き安全対策	使用前に注意書きをよく理解して取り扱うこと。 水による希釈、攪拌に際して人体に(特に眼)かかると重大な状態になるので防具を着用し注意すること。 取扱いについては項目、**「８．暴露防止措置及び保護措置」**を参照。

応急処置	項目、「**４．応急処置**」を参照。
保管	項目、「**７．取扱い及び保管上の注意**」の「保管・接触回避」参照。
廃棄	廃棄方法は政令で定める技術上の基準に従い、各規制値内に処理をした後でなければ廃棄してはならない。

３．組織及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物（液体）			
化学名（一般名）	ＫＳクリーン　自動洗浄機用（アルカリ無気泡性）			
成分	CAS No	化審法番号	安衛法番号	含有量
水酸化カリウム	1310-58-3	1-369	公表化学物質	4.2%
キレート剤	64-02-8	2-1265	既存	社外秘

４．応急処置

目に入った場合	清浄な水で 15 分位洗眼し直ちに眼科医の手当てを受ける。 （コンタクトレンズは直ちに外す）
皮膚に付着した場合	付着した衣類を脱ぎ水又は微温湯を流しながら洗浄する。
吸入した場合	水で十分うがいをさせ、新鮮な空気の場所に移動させる。 直ちに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受けることが不可欠である。

５．火災時の措置

消火剤	粉末・炭酸ガス。
使用しない消火剤	水。
特有の危険有害性	本品は消防法では非危険物で、火災・爆発の恐れはない。
特定の消火方法	移動不可の場合周囲に指定の消火剤を使用し類焼を防ぐ。 アルカリ性の為、製品が混入した消火排水は酸による中和処理が必要なので、出来る限り流出物が配水管又は水路に入るのを防ぐ。
消火作業者の保護	消火作業の際は適切な空気呼吸器、化学用防護衣を着用。
二次災害の防止	すべての発火源を速やかに取り除く。

６．漏出時の措置

人体に対する注意	作業の際には保護具（ゴム手袋・マスク・眼鏡等）を着用。
緊急措置	関係者以外立ち入り禁止にし、密閉された場所に入る前に換気をする。
環境に対する注意	河川等に排出させない。環境への影響に注意を払うこと。
回収、中和	大量の場合、極めて腐食性が強いので必ず保護具を着用。 防水シート等で表面を被覆して飛散防止を図り回収する。 回収物は、「**１３．廃棄上の注意**」を確認のうえ処理をする。 排液はアルカリ性を示すので酸で中和が望ましい。
封じ込め方法	ビニール等の漏れない容器に入れる。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い技術的対策	眼、皮膚、着衣に直接触れぬよう、適切な防護具を着用。
安全取扱注意事項	開封された容器は、再び完全に封をしなければならない。 容器を転倒・落下等衝撃を与えないよう取り扱いをする。 接触、吸入、又は飲み込んではならない。眼に入れない。 長時間の接触でアルミ、錫、鉛、亜鉛等、及びその合金を腐食する。
保管・接触回避	保管場所の床は浸透しない構造とする。 適切な傾斜をつけ、かつ適切な溜め枡を設けること。 直射日光を避け雨水がかからず換気が良い涼しい場所に保管する。
混触危険物質	酸、金属、爆薬、有機過酸化物などからは離しておくこと。
保管条件	使用後容器の保管は衝撃等の容器破損事故の防止措置を講じる。 貯蔵場所には、毒劇物と他の薬品を区別して保管する。 貯蔵容器は水分を吸わないように容器は密閉して保管する。
容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用。

８．暴露防止及び保護措置

管理濃度		設定されていない。
許容濃度		日本産業衛生学会（91 年度版）; 設定されていない。
設備対策		粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設定する。 貯蔵又は使用する場合、眼洗浄及び安全シャワーの設置が望ましい。
保護具	呼吸用保護具	防塵マスク。
	保護眼鏡	防護眼鏡。
	保護手袋・靴	ゴム手袋等及びゴム長靴等。
衛生対策		この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

９．物理及び化学的性質

外観等	無色透明液体
ｐＨ	13±0.5（原液）
嵩比重	約 1
溶解度	水、自由に溶ける。

１０．安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性	酸に反応して中和熱を発する。 希釈液は皮膚・眼等に対して薬傷を引き起こす。
混触危険物質	アルミニウム、錫、亜鉛、クロム及び合金はアルカリに溶解する際 水素を発生し空気と混合して爆発する恐れがあるので注意する。
避けるべき条件	直射日光、熱、水濡れ。

１１．有害性情報

製品の有害情報

急性毒性	原料データから区分１の原料が濃度 5%未満であることから区分 4。
皮膚腐食性	原料データから区分１の原料が濃度 5%未満であることから区分 2。
刺激性（眼）	粘膜を激しく刺激し眼に重篤な損傷を与える。区分 1。
特定標的臓器/全身毒性(単回)	原料データから区分１の物質の濃度が 10%未満から区分 2。
生殖細胞変異原性	データなし。
発がん性	発がん物質リストにアップされていない。
その他	微粒子やミストを吸入すると鼻、のど、気管支、肺を刺激し、口内、喉及び胃の灼熱感、嘔吐、下痢、虚脱等の症状を示す。

１２．環境影響情報

製品の環境影響情報	漏れ・廃棄などで環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意。
水生環境有害性　短期	原料データから単純加算法により区分 3。
魚毒性	ブルーギル 96ｈ ＬＣ$_{50}$ 486 mg/L
その他	無処理水は水生生物に悪影響を及ぼすので中和処理が必要である。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	容器、機器装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。環境中に放出する場合、廃棄前に可能な限り無害、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性レベルを低い状態にし、法的基準を満たしていることを確認してから行う。
容器及び包装	空容器を廃棄する場合、内容物を完全除去した後に法的に適切な処理をする。

１４．輸送上の注意

取扱い方法	容器が破損しないよう乱暴な取扱いを避け、長時間高温にさらさないこと。運搬する場合には、飛散、漏れ、流出等を防ぐのに必要な措置を講じる。酸類、有機薬品との混載をしないこと。

１５．適用法令

労働安全衛生法	第 57 分条に規定される表示対象物（水酸化カリウム） 第 57 条の 2 に規定される通知対象物(水酸化カリウム) 第 57 条の 3 に規定される調査対象物(水酸化カリウム)
労働安全衛生規則	第 326 条に規定する腐食性物質(水酸化カリウム)
労働基準法	疾病化学物質（法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号）（水酸化カリウム）
水質汚濁防止法	施行令第 3 条の 3 項、指定物質(水酸化カリウム) 施行令第 3 条、水素イオン濃度等の項目（水素イオン濃度）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物（施行令第 2 条の 4）（水酸化カリウム）

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律(水酸化カリウム)
有害性物質(Y 類物質.溶液) (水酸化カリウム)
有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律第 2 条有害物質(水酸化カリウム)
化学物質管理促進法　第一種指定化学物質(キレート剤)
エチレンジアミン四酢酸並びにそのナトリウム塩を 6.2～6.7%含む
(2023 年 4 月 1 日より、化管法第 1 種指定化学物質)

１６．引用文献

1) 原料メーカー安全データシート参照
2) 毒物及び劇物取締法 MSDS 対象物質全データ (2001)
3) 化学品安全管理データブック　化学工業日報社 (2000)
4) 発がん性物質の分類とその基準（第３版）（社）日本化学物質安全情報センター

備考

洗浄後は速やかに水洗し、完全除去して下さい。
入手出来うる資料や文献を調査参照して記載しておりますが、全てのデータではない為情報洩れがあるかもしれません。使用に際しては用途・用法を遵守しご使用下さい。
又、記載のデータや評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。
ＳＤＳの内容は、新しい知見の発表や従来の説の改定、法律の改正により、内容の変更を致します。
重要な決定等にご利用される場合は出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
本データシートは安全の保証書ではないこと、また安全な取扱いを確保するための参考情報として、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものです。
記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。
化学物質の人体への影響ついては個人差が有り、影響は一様でないので安全対策に心がけて下さい。